

私の使命は

南部中・1 赤木 志帆

「あなたの使命とは、なんですか。」

小学六年生、最後の道徳の時間に先生が投げかけた問いである。

この日の授業は、マザー・テレサの伝記を読んで、マザーについて考えるという内容だった。マザーは、

「この世に生を受けた全ての人は、何か人の役に立つ使命をもって生まれてきたのです。」と言った。マザーは貧しい人たちのために様々な活動をしていたので、使命を全うしていると感じた。

私はどうだろうか。まず、自分の「使命」について考えたこともなかった。私も何か人の役に立つ使命をもって生まれてきたのだろうか。私はどうやって人の役に立てるのだろうか。私の使命はなんだろう。その日私は、先生の問いに答えることができなかった。

中学生になってから、少し経ったある日の夜。見ていたニュースが終わると、「プロジェクトX」という番組が始まった。内容は、心臓病の子どもの手術をする回数を減らすために、新しい製品の開発プロジェクトに挑戦する人々の姿を特集したものだった。手術をするとき、血管にパッチを貼るのだが、成長するとともに、血管も大きくなるので、パッチを貼りかえるための手術を何回もしなければならぬそうだ。それを減らすために、のびるパッチを開発する、という内容だ。私は開発を行っている人たちの姿に心打たれた。手術を担当する医師たち、パッチの製造会社の社員たち、関係するどの人も、何度失敗しても諦めず、「絶対に成功させる」という強い意志をもって取り組んでいた。その姿を見て、私はあの授業を思い出した。全力で取り組んで、自分の使命を果たしている姿は、マザーと重なって見えた。

それから私は、この番組をよく見るようになった。安全な電気自動車を作る開発チーム、学校から見放された子供たちを受け入れ、楽しい授業をした小学校、日本のバスケットボールチームを大きく成長させたコーチやマネージャー。みんなそれぞれのやり方で自らの「使命」を全うしていた。

「使命」を果たしている人は、実は身近にたくさんいることに気がついた。例えば父。父は自衛官で、今年の一月に起きた能登半島地震の後、すぐに被災地に向かった。その後何週間も家に帰らなかった父は、救助活動や復興の支援など、被災された方たちのために活動した。一方、被災された方たちも、仕事の再開や祭りを行うなど、大変な中で今自分にできることを一生懸命行っていた。

私は身近な人やテレビで大きく取り上げられたわけではない人でも、自分の「使命」や今できることを一生懸命やっている人はたくさんいるのではないか、ということに気がついた。

また、うまくいかなくて挫折しそうになったり、周りから厳しい言葉をかけられたり、世間の壁や時間の壁が次々と行く手を塞ぐことがあることも知った。マザーは、貧しい人々を救うために、地道な活動続けた。活動は辛く、大変なこともあっただろうが、諦めない積み重ねが多くの人を救う力となった。「プロジェクトX」の人たちも、製品がなかなかうまくいかないとき、何度も何度も作り直し、試行錯誤しながら研究続けた。諦めないで挑戦する姿は勇ましく、力強く、カッコいいと思った。その努力があったおかげで、プロジェクトを成功させていた。私は何をするにも努力が必要だと改めて感じた。努力できる人になりたい。

人の役に立つ「使命」。私は自分がどんな形で全うするか、考えながら過ごしたい。そして、どんな高い壁が現れても諦めず、強い意志をもってなにかに一生懸命になれる人になりたい。

そう決意してから数か月後、まだ自分の「使命」は分からないけれど、何事にも努力し続けたい。あの日、答えられなかった質問に

自信をもって答えることができるように。
「あなたの使命とは、なんですか。」